

令和7年度第2回君津市社会教育委員会議次第

日時 令和7年9月29日（月）

午後2時から4時まで

場所 生涯学習交流センター201 会議室

1 開会

2 あいさつ

3 報告 (1) 生涯学習バスの見直しについて

4 協議 (1) 公民館等社会教育施設の今後のあり方について
・公民館の開館時間、使用料金等について

(2) 令和7年度行政及び各機関の特徴的な取り組みについて

5 その他 4市、県関係の事業について

- ・君津地方社会教育委員連協臨時総会
- ・第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会 11/21（金）
- ・千葉県社会教育振興大会 12/4（木）
- ・第60回君津地方社会教育推進大会 1/25（日）

次回会議の予定について

第3回社会教育委員会議) 12月24日（水） 14時

*主な議題：公民館の開館時間について

追加で会議を設定します。

第4回社会教育委員会議

当初2月予定 → 3月に変更したい。（詳細後日）

6 閉会

生涯学習バスの見直しについて

生涯学習文化課

これまで、そのあり方について議論を重ねてきた生涯学習バスですが、今後の体制に変更が生じるので報告します。

【現状】

- ・生涯学習バス2台体制で運行
ふれあい号（55人乗り）、かがやき号（40人乗り）
- ・主な利用団体
学校、君津市教育委員会・教育機関、君津市、市内の社会教育団体

【変更内容】

- ・令和8年12月1日から1台体制へ。かがやき号のみで運行する。
- ・ふれあい号（55人乗り）を廃車。リース会社へ返還する。

【変更理由】

- ・車両の老朽化
平成18年車（20年経過する）
- ・突発修繕のリスク
8月にふれあい号の空調が故障。修繕額約92万円。
- ・市財政難からの費用節減
2台体制費用：年間約1,700万円 → 1台体制費用：年間約1,200万円
- ・これらを総じて、令和7年度事務事業総点検の結果、1台体制が決定。

【今後の対応】

- ・令和7年9月 社会教育委員会議で報告
- ・令和7年10月 教頭会議等で学校に周知
- ・令和7年12月 教育委員会会議で報告・令和8年度の先行予約
～全市的な周知期間～
- ・令和8年11月 末日、現運行管理契約満了
- ・令和8年12月 1台（かがやき号）体制開始

【懸念点】

- ・利用者にとって、希望日が取りにくくなる
- ・最大95名を同時に運行できたが、40名以下に
- ・学校活動に貢献できなくなる分は保護者に負担がかかる

公民館の開館時間、使用料金等についてアンケートを実施しています！

君津市教育委員会では、今後の継続的な公民館の運営のため、開館時間や使用料金などについて検討を行っております。

そこで、みなさまからご意見を伺うためにアンケートを行っております。ぜひ、ご協力いただきますよう、お願いします。

公民館の開館時間、使用料金等についてのアンケート (期間9月30日まで)

君津市教育委員会では、現在の社会状況の中、今後の公民館の継続的な運営のためには、休館日の新設や閉館時間を早めるなどの見直し、施設使用に関する経費面の工夫が必要と考えています。そこで、皆様のご意見をお聞かせいただきたく、アンケートにご協力をお願いいたします。

※参考:表1は団体が公民館を使用した際の終了時間の状況(日曜日を除く)、表2は曜日ごとの団体の使用件数です。(数値はサンプルとして令和7年4月～6月の8公民館の延べ使用件数の合計から算出したものです)

終了時間	12:00まで	17:00まで	20:00まで	20:30まで	21:00まで	21:30まで	22:00まで
延べ4805件	1712	1843	454	208	374	181	33
割合	35.6%	38.4%	9.4%	4.3%	7.8%	3.8%	0.7%

使用件数	月	火	水	木	金	土	日
延べ5324件	814	688	974	825	746	758	519
割合	15.3%	12.9%	18.3%	15.5%	14.0%	14.2%	9.7%

以下にご回答をお願いします。こちらからスマホ等でもご回答いただけます。

回答方法 アイウ...には○、□には△、 には記述をお願いします。

①ご回答者の年代と、お住いの地区についてお尋ねします。(○は年代・地区各ひとつだけ)
 年代: A:10代以下、I:20代、U:30代、E:40代、O:50代、K:60代、K:70代以上
 地区: A:君津、I:八重原、U:岡西、E:岡南、O:小糸、K:清和、K:小櫃、K:上総、K:ケその他

②日ごろ公民館をどのくらいお使いですか。(ア～エのうち○はひとつだけ)
 ア:ほとんど使わない、I:年に数回程度使う、U:月に1回程度使う、E:月に2回以上使う

③休館日、閉館時間の見直しについて、お考えに近いものと、理由を教えてください
 (現在、閉館時間は、月～土曜日 22時、日曜日 17時、定期的な「休館日」は、祝日・年末年始です)
 - お考え(ア～エのうち○はひとつだけ)
 ア 休館日も閉館時間も現状のままでよい
 イ 休館日は増やし、閉館時間も早めてよい
 ウ 休館日は増やし、閉館時間は早めてよい
 エ 休館日を増やさず、閉館時間は早めてよい

- 理由(✓は複数可)
 自分の活動に影響がある 自分の活動には影響ない
 自分には影響ないが他への影響がある 市民活動の活性化の観点から
 社会情勢に沿った見直しは大切 税金で運営しているので経費削減等は大切
 節電など環境等への配慮は大切
 その他

④「③」でイ～エの回答をされた方にお尋ねします。
 ・③で「イ」か「ウ」に回答の方、休館日はア～ウのどれがよいですか(ア～ウのうち○はひとつだけ)
 ア 週1回「終日休館」にする - { 曜日 }
 イ 週1回「夜間(17時以降)を休館」にする - { 曜日 }
 ウ その他 { }
 - 月～土: { } (現在月～土 22時、日 17時)

⑤「③」で「ウ」か「エ」に回答の方、閉館時間は何時がよいですか (現在月～土 22時、日 17時)
 - 月～土: { } (日: { })
 ⑥その他、休館日や閉館時間についてお考えがあれば記入してください

⑦現在、公民館は、サークル・グループ活動など市民の社会教育活動や地域活動は使用料無料ですが、光熱水費、施設維持等に相当の費用がかかっています。使用される方に一部負担いただく必要があると考えております。そこで、施設の使用料へのお考えと、理由を教えてください。
 - お考え(ア～エのうち○はひとつだけ)
 ア 今のまま「無料」がよい
 イ 光熱水費などの実費程度は直接使用する側が負担してもよい
 ウ 光熱水費以外にも相当の使用料を負担してもよい
 エ わからない

理由(✓は複数可)
 そもそも使用料は無料がよい
 無料がよいが社会情勢を考慮使用者がある程度負担するのはやむを得ない
 自分の活動への影響を考慮 そもそも使用料は有料がよい
 学習機会の均等、市民活動の活性化の観点から 自分の活動以外の団体等への影響を考慮
 殊な設備等を直接使う人から料金を徴収するのはやむを得ない
 施設・設備等の維持補修等にはある程度の負担はやむを得ない
 環境面などを考えても水、電気、燃料等の過剰な使用の抑制が期待できる

◇アンケート内容の確認・回答方法 (期間:令和7年9月30日(火)まで)
下記の URL または二次元コードから内容の確認や回答ができます。

<https://logoform.jp/form/Tpmw/1175036>



※紙様式での回答をご希望の方
市内各公民館にアンケート用紙及び回収箱がありますので、ご利用ください。

令和7年度行政及び各機関の特徴的な取組

所属:生涯学習文化課

分 類	
事業名称	社会教育関係職員事業担当者会議
実施日(期間)	令和7年8月19日(火)
目 的 ね ら い	君津市内の社会教育機関及び社会教育行政担当部署の職員が一堂に会し、それぞれの業務内容、成果、課題等について情報を共有し、相互理解を深める。 情報交換を通じて、機関・部署間の連携及び協働体制を強化し、君津市における社会教育のさらなる推進と基盤強化を図る。
対 象	社会教育機関、部署の職員
回 数 延べ参加人数	全2回実施予定(8月、2月) 第1回参加者12名
周知方法	関係機関への依頼
事業概要	<ul style="list-style-type: none">各施設・部署の担当者から、令和7年度事業計画について、事業計画、及び前年度の成果と課題について報告が行われ、課題に関する討議を実施した。現行の君津市総合計画が令和8年度で前期期間を終え、令和9年度からはじまる後期計画の策定が令和8年度から本格化する見通しであることを説明。 社会教育分野に関する部分については、現場で活動する職員の意見を積極的に反映させることが不可欠であり、本会議の場などを通じて議論を深めていきたいと提起した。
成果・課題	<ul style="list-style-type: none">社会教育施設や部署が一堂に会して課題を共有したことは成果であった。 今後、課題解決に向けた歩みを一歩ずつ進めていきたい。本取組は始まったばかりだが、議論をどのように各セクションの業務改善につなげていけるかが課題である。

令和7年度行政及び各機関の特徴的な取組

所属:生涯学習文化課

分類	コミュニティ・スクール推進事業
事業名称	コミュニティ・スクール推進事業
実施日(期間)	
目的・ねらい	学校運営協議会は、学校の運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する機関として、君津市教育委員会(以下「教育委員会」という。)及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民による学校の運営への参画、支援及び協力を促進することにより、学校と保護者及び地域住民との信頼関係を深め、児童及び生徒の豊かな学びと育ちを創造することを目的とする。
対象	周西南中学校区、上総小櫃中学校区
回数・延べ参加人数	・学校運営協議会 3回 ・座談会 1回(座談会は有志委員による自由討議の場)
周知方法	事務局校がホームページにより会議開催周知 生涯学習文化課ホームページにて、コミュニティ・スクールの概要について周知
事業概要	<p>1 周西南中学校区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、学校運営協議会、地域学校協働本部、青少年健全育成連絡協議会、小中学校PTAなど、子どもたちの健やかな成長を願う様々な団体が活動している。しかし、担い手不足などの課題、活動内容が重複している点も多いことから、これらの課題を地域の諸団体と共有し、今後の地域と学校の連携や活動のあり方について検討すべく、新たに「拡大懇談会」を開催した。拡大懇談会では、「コミュニティ・スクールを中心として、各団体がそれぞれの得意分野で役割を分担することで、課題解決につながるのではないか」との提起がなされた。 ・今後は、関係者で検討チームを組織し、各団体の活動内容を整理し、より効果的で持続可能な活動体制の構築を目指す。9～11月の間に全3回の検討会議、12月に第2回拡大懇談会を開き、全体で方向性を共有する予定である。 <p>2 上総小櫃中学校区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上総小櫃中学校区は、学校再編に伴い、4小学校、4中学校から2小学校、1中学校の体制に改まった地域である。令和6年度の学校運営協議会の導入から丁寧な協議を重ね地域と学校の新たな関係づくりを模索している。 ・地域から学校の様子が見えにくくなったことを背景に、地域と学校の信頼関係の構築を目指して、「学校の困りごと」に着目した協議を進めてきている。9

	<p>月に実施した「座談会」では、「各学校の課題からコミュニティ・スクールとしてできること」について話し合い、学校の困りごとの相談先の一つとして、学校運営協議会を活用していくことを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校から、上総小櫃中学校区全体でSDGs活動の一環として実施する「学区クリーン作戦」について、中学校区の12の地区に分けて実施したいと説明があった。地域と学校を結ぶ活動の一つとして学校運営協議会委員がかかわり、丁寧に活動を進めていくことを確認した。今後は、各地域（小櫃、久留里、松丘、亀山）に学校運営協議会委員、地域住民等の担当者を配置し、この担当者が地域と学校の橋渡し役を担い、きめこまやかな連携を推進することを目指していく。
<p>成果・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会が、相互理解等を通じて、地域課題解決に向けて、学校、家庭、地域をつなぐ中心的な役割を担う組織体制として、歩みを進める兆しが見えたことが成果である。 ・保護者、地域住民の多くは、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）についての認知度が低い状況にあり、「地域とともにある学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」の実現に向け、さらなる周知を図っていく必要がある。

令和7年度行政及び各機関の特徴的な取組

所属:生涯学習交流センター

分 類	市民相互交流促進・生涯学習促進事業
事業名称	現代社会・地域セミナー
実施日(期間)	令和7年度7月から
目的・ねらい	「多様な生涯学習メニューの提供」 昨年度のアンケートを基に、市民のニーズに沿った事業を展開する。 また、市民の身近な課題や本市における課題に応じた事業も行う。
対 象	どなたでも
回 数 ・ 延べ参加人数	全6回程度を予定 9月現在 2事業終了 27名参加
周 知 方 法	ホームページ、館内掲示、駅跨線橋掲示、SNS 配信
事業概要	<p>○現代社会・地域セミナー（ちばアカデミア講座共催事業）</p> <p>さわやかちば県民プラザなど他機関が実施している取組を活用し、多様な視点の醸成、生涯学習についての理解を深める事業を実施。</p> <p>※①～⑤はさわやかちば県民プラザのアカデミア講座のサテライト会場として実施。</p> <p>① 7月12日（最先端技術・データを活用した地震の理解）</p> <p>② 9月13日（子どもがのびる！「非認知能力」～人生を豊かにする力を育む～）</p> <p>③ 10月13日（「まよう心に備える防災リテラシー」）</p> <p>④ 11月29日（腸内環境の改善について～生活習慣病・認知症予防の可能性～）</p> <p>⑤ 令和8年1月19日（ウェルビーイング～よりよく生きるためのヒント～）</p> <p>上記の他戦後80年といった社会的なテーマを意識した事業を計画中</p>
成果・課題	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座は直接オンラインで参加することもできるが、サテライト会場を実施することで、オンラインで参加することが苦手な高齢の方にも参加するきっかけを作ることができた。 ・非認知能力の講座では参加者から自分が子育てしている時に学びたかった。孫と関わる上で活用していきたい等前向きな意見を聞くことができた。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サテライト会場が複数あるため、質問などをその場でしばらく雰囲気になっていた。 ・高齢者の参加者が多かった。特に②については子育て世代にも重要な内容であったが、子育て世代の参加はなかった。子育て世代の方にも伝わるような周知方法が必要。


令和7年度行政及び各機関の特徴的な取組

所属:君津中央公民館

分 類	① コミュニティ活性化事業／②課題解決推進事業
事業名称	①公民館だより「ひこばゆ」発行事業（コミュニティ活性化事業） ②助けあい・支えあい広場「あいあいカフェ」（課題解決推進事業）
実施日(期間)	①年間3回（令和7年6月、12月、令和8年3月）、各回5000部発行 ②通年実施。
目的・ねらい	同じ課題意識を抱えた人の交流の機会や、自治会館などを活用した地域に出向く事業を創出することで、地域ネットワークの再構築や地域自治能力の向上を目指す。
対 象	どなたでも
回数・延べ参加人数	①年間3回（令和7年6月、12月、令和8年3月）、各号5000部発行。 ②通年実施
周知方法	公民館区内に自治会回覧、館内掲示にて周知している。
事業概要	① 公民館だより「ひこばゆ」発行事業 発行回数：年3回（6月・12月・3月） 発行枚数：5,000部（地区自治会回覧を中心に配布） 内容：戦後80年、あの戦争を忘れない（特別企画）、青少年相談員の紹介 自治会長随想、地域の情報ほか ② 助け合い・支え合い広場「あいあいカフェ」 活動内容：カフェ運営 活動場所：生涯学習交流センターロビー 活動日：毎週木曜日11時～13時
成果・課題	①公民館だよりと地域のとのつながりにおける反省を踏まえ、「一番身近な地域情報誌」への見直しを図っている。令和7年度は「特集 この地域の『戦争』をたどって」をシリーズ化し、第378号（6月19日発行）では特集のほか、地域の人13名、地域団体1を掲載。自治会から取材を求める声などが得られるようになった。 ②地域ぐるみでの障がいへの理解や、卒業後も障がい者が様々な活動ができる機会を望む声を契機に始動した「あいあいカフェ」が3年を迎えた。ボランティアは2名から7名となり、高校生、大学生の臨時ボランティアも生まれた。公民館利用団体以外のカフェ利用者、とくに障がいのあるリピーターが徐々に増え、初期目的に沿った展開となっている。カフェ売り上げによる地域福祉・ユニセフ等への寄付は上半期で27,000円程の見込み。（前年度年間総額52,843円）。また、「あいカフェ」を参考にした取組が「おらがわ」主催による地域活性化事業や周西地区における地域づくり活動でも始まり、他地域への広がりがみられる。



令和7年度行政及び各機関の特徴的な取組

所属：八重原公民館

分 類	コミュニティ活性化事業	
事業名称	地域団体との連携事業	
実施日(期間)	8月2日(土) ※隔月開催	
目的・ねらい	<p>令和7年度の重点取組として、「地域活動の担い手育成と地域団体とのネットワーク構築」を掲げている。自治会や子ども食堂など地域団体の活動を支援し、具体的な連携の機会を持つことで公民館とのつながりを強め、今後の地域づくりを見据えた関係性の構築を目指す。</p> <p>今回は地域食堂「やえはらキッチン」との連携・協働による地域の居場所づくり、若年層が地域と関わるきっかけづくりを目指した。</p>	
対 象	地域住民、中学生(ボランティア)	
回数・延べ参加人数	8/2(月) 中学生ボランティア2名、来場者124名(大人70名/子ども54名)	
周知方法	食堂開催ちらし自治会配布、中学校にボランティア募集ちらし	
事業概要	<p>地域食堂「やえはらキッチン」は30～40代のメンバーが中心となり、昨年から八重原公民館を会場に隔月で食堂を開催している。中学生ボランティアの取り込みを目指す団体と、公民館としても中学生にアプローチした取組がないことから、夏季休暇中の開催日において中学生ボランティアの募集、ボードゲーム大会を合同企画として実施した。</p>	 <p style="text-align: center;">ボードゲーム大会</p>
成果・課題	<p>会場では子どもと大人と一緒にゲームに興じる姿が見られ、多世代交流の場となった。来場者は回を重ねる毎に増えており、食堂の開催が地域に定着してきている。中学生のボランティア参加は2名にとどまり、声掛けの工夫が必要である。「地域の居場所、活躍の場づくり」「若年層とのつながり」といった目的を団体と共有し、支援と連携の両面で協力体制を築いていく。また公民館で行っている事業や日常的な関わりの中で小中学生とのつながりを持ち、地域活動への関心を育てていく必要がある。</p> <p>その他の地域団体とも連携の機会を探り、公民館の「つなぐ」機能を活かして様々な人材を地域活動に結びつける工夫を図っていく。</p>	

令和7年度行政及び各機関の特徴的な取組

所属：周西公民館

分 類	課題解決学習推進事業	
事業名称	周西地区地域づくり協議会支援事業	
実施日(期間)	令和7年4月から	
目 的 ね ら い	<p>令和6年度より、市の新たな地域づくりの仕組みとして地域づくり協議会の制度が開始され、周西地区では同年6月より設立準備会の取組が始まっている。</p> <p>地域に住んでいる人やその地域に関心を寄せる人が、主体的に「地域づくり」に取り組むことで、更なる地域コミュニティの活性化と多様な住民自治（地域自治）の実現を目指すため、協議会設立に向けた動きと、設立後の運営支援を行う。</p>	
対 象	準備会メンバー、団体設立後の会員	
回 数 延べ参加人数	事業概要欄記載の通り	
周 知 方 法	ホームページ、広報きみつ、公民館だより、自治会回覧、地域内団体説明	
事業概要	<p>※地域づくり課との共同実施</p> <p>(1) 設立準備会（会議）支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6回（4～8月） 延べ91名 <p>(2) その他の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営チーム会議（いわゆる役員会）実施支援 7回（4～8月）延べ41名 ・ 発足後を見通した事業（“あれカフェ”）の試行支援 4回（5～8月） ・ 新規団体発足に向けた地域への説明支援 8か所（6月～9月） ・ 新規団体発足に向けた会員募集周知（市HP、公民館 Facebook、チラシ） ・ 広報紙「周西地区設立準備会だより③」発行（8月） 	 <p style="text-align: center;">設立準備会会議の様子</p>  <p style="text-align: center;">メンバー作成会員募集チラシより</p>
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの期間における支援において、「学ぶ」「話し合う」という社会教育的なアプローチを丁寧にとどりながら、1年余りの議論を経て、新たな地域組織の発足に到達することができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでは準備段階としての支援であったが、組織発足後は支援のアプローチを変化させていく必要がある。既存の地域団体とは異なる動きをする組織となること、活動が本格的に始まり課題がより具体化してくるなどが想定される。今後の支援の在り方を実践と試行錯誤を重ねながら検討していく。 	

令和7年度行政及び各機関の特徴的な取組

所属：周南公民館

分 類	課題解決学習推進事業
事業名称	課題解決：親子 de 冒険山～子どもと一緒にワクワクを探そう～
実施日(期間)	令和7年8月～令和8年1月 全4回（うち1回は特別企画として、八重原公民館と共催）
目的・ねらい	体験活動をとおして、子育て世代が地域の様々な事象に関心に関心を向け、主体的に考える、関わるができる機会づくりを目指す。
対 象	周南地区在住・在学および周南地区に関心のある小学生の親子(とその家族)
回数・延べ参加人数	概要欄参照。全4回 / 第1回(8/9)申込 7組 16名 (番外企画(八重原公民館と共催)：15組 37名申込)
周知方法	小中学校児童生徒へチラシ配布(学校メール配信アプリ「スグール」にも依頼)、(市SNS-特別企画のみ-)等
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・近年取り組めていなかった子育て世代対象の連続事業として実施。「週末、親子で公民館に行ってみよう♪」をキャッチコピーに、子どもと楽しめる体験活動を主軸に置き、親子で地域に目を向けるきっかけとなるようなテーマや人材を取り入れた内容としている。 ・講師としてだけでなく、事業運営等について地域の人、団体等に協力を頂く。 ・特別企画含む全4回予定。 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 8/9(土)「真夏のひんやり実験」 7組 16名 第2回 9/20(土)「はじめてのジビエ料理」(特別企画：八重原公民館と共催) 第3回 11/30(日)「山で遊ぶ～裏山ロープウェイづくり～」 第4回 1/18(日)「探検！周南の名所～目指せ〇〇！」 ・通年申込みは7組であるが、各回の合間に地域イベントや主催事業があることから、その都度募集を行い、関心を持った方が気軽に参加できる形としている。
成果・課題	<p>成果：低学年の子を持つ保護者を中心に、特に父親の申込・参加が多かった。感想から、子どもだけでなく、親自身の関心で参加した様子も見受けられ、本事業が地域に関心を持つきっかけになったことが伺えた。</p> <p>課題：まだ始まったばかりの事業であり、今後の展開については工夫が必要である。他の子ども対象事業、団体や他部局との事業とも関連を持たせ、どの事業に参加しても地域に目を向ける、関心を持つことができるよう実施していく。また関心を持つだけでなく、自ら関わっていく動機づけに繋がるよう、本事業終了後には、参加者や小学校の保護者等に呼びかけ、次年度に向けての企画を当該世代と一緒に組み立てていけるよう進める。</p>



令和7年度行政及び各機関の特徴的な取組


所属：小糸公民館

分 類	地域子育て支援拠点事業
事業名称	人形劇鑑賞&舞台の裏側体験
実施日(期間)	令和7年8月26日(火) 午後2時30分から5時まで
目 的 ね ら い	SNSの浸透や教育環境の変化により、相手の気持ちを理解したり、感情を言葉で表現したりする力の低下が危惧されている。喜怒哀楽を体現する生の舞台芸術鑑賞を通して、豊かな感性を育むこと、大学生と交流を図ることを目的に実施。
対 象	第1部：小学生から大人向け100名程度 第2部：中学生から大人向け 20名程度
回 数 延べ参加人数	第1部：104名(大人53名、中学生9名、小学生38名、幼児9名) 第2部： 17名(大人11名、中学生2名、小学生 3名、幼児1名)
周知方法	広報きみつ、君津市メール・LINE、自治会回覧、ポスター、チラシ等
事業概要	<p>運営協力：筑波大学人形劇団NEU(ノイ)さん</p> <p>第1部「人形劇鑑賞～注文の多い料理店～」 第2部「もっと知りたい!宮沢賢治の世界」</p> <p>対象世代を分けて2部構成で実施。第1部は、迫力ある人形劇の鑑賞に加えて、舞台上で使用している人形や道具、楽器等を紹介。第2部は、出版された100年前の時代背景から作品への理解を深め、脚本の考察や演出へのこだわりを解説。その後、人形操演や楽器演奏体験をしながら大学生と交流を深めた。生の舞台芸術にふれ、本格的な演技、照明、効果音の生演奏、すべてに魅了されながら心揺さぶられる体験となった。</p>
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術鑑賞では会場全体が集中して作品に入り込み、舞台の裏側体験では、演者の立場を実感するとともに、人形を用いた感情表現を体験できた。 ・2部構成にすることで、芸術鑑賞に加えて文学作品を掘り下げてより深く学ぶことができた。また、現役大学生との交流は将来につながる貴重な機会となった。 ・作品の切り取り方や演出の工夫により、子どもから大人までそれぞれの立場で楽しめる内容であった。参加者からは「宮沢賢治の独特な雰囲気想像する力が素晴らしい。最後に交流があって救われた。」「子どもにとって大変貴重な機会。夏休み最後に良い思い出になった。」「迫力ある人形劇にハラハラドキドキした。」「小糸公民館は魅力的なイベントが多い。免許がないのでなかなか参加できないが、今回来ることができて本当に良かった。」、等、多くの好評の声をいただいた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇に企画することで学童と交流を図るねらいもあり、児童54名の申し込みがあったが、暑さで移動が困難となり実現に至らなかった。今後も連携を図り、会場や時期等を工夫して交流機会を設けていきたい。



令和7年度行政及び各機関の特徴的な取組

所属:清和公民館

分 類	コミュニティ活性化支援事業	
事業名称	地域団体、関連機関との連携・支援事業 「みんなの秋まつり～清和の夕べ～」	
実施日(期間)	令和7年9月13日(土)(主な取組期間:6月～9月)	
目的・ねらい	<p>かつて清和地区の各所で盛んに行われていた「盆踊り大会」を地域を挙げて復活させることで、清和に暮らす人々やゆかりある方々の地域への愛着を育み、地域の活性化に寄与すること。</p> <p>※主催:みんなの秋まつり～清和の夕べ～実行委員会 共催:清和地域市民センター、清和公民館</p>	
対 象	地域住民ほか	 
回数・延べ参加人数	当日来場者:約600名	
周知方法	自治会回覧、チラシ配布	
事業概要	<p>6月24日 準備会 7月16日 第1回実行委員会 7月31日 第2回実行委員会 8月17日 櫓建て 8月22日 盆踊り練習 8月31日 部門別企画会議 9月4日 草刈り、盆踊り練習 9月11日 盆踊り練習 9月13日 「みんなの秋まつり～清和の夕べ～」当日 9月14日 櫓解体 ※今後、第3回実行委員会を実施予定</p> <p>地域の各種団体に実行委員として協力していただいたほか、自治会等への協賛金の協力を依頼し、運営資金とした。</p> <p>当日は、盆踊りのほか、実行委員が企画した子ども向け企画(大声大会、スリッパ飛ばし大会)、一般企画(清和クイズ、抽選会)を実施。</p> <p>協力団体:16団体、出店団体:15団体、協賛:42件</p>	
成果・課題	<p>【成果】 子どもから高齢者まで、約600名の方々が来場し、イベントを楽しんでいただくことができた。また、複合施設の各機関職員が連携し、地域活性化への姿勢を示すとともに、多くの地域団体や個人の主体的な参画により、今後のより良い地域づくりへの機運を高めることができた。</p> <p>【課題】 グラウンドの水はけが悪く、雨天が続くと駐車場の確保が困難となるため、多くの関係者の労力をかけて準備を行っても中止にせざるを得ない可能性が高いこと。</p>	

令和7年度行政及び各機関の特徴的な取組

所属：小櫃公民館

分 類	コミュニティ活性化事業
事業名称	①「きみつ地域づくり協議会 小櫃地区設立準備会」伴走支援事業 ②団体支援事業から 地域食堂「おびつ あそんべ食堂」活動支援
実施日(期間)	①令和7年3月から / ②令和7年5月から
目的・ねらい	①令和6年度から全市的な取り組みである「地域づくり協議会制度」が始まり、小櫃地区では有志による学習会を経て、7年3月にキックオフ、同年5月からは協議会設立に向けた準備会がスタートしている。公民館・市民センター・地域づくり課三者が緊密に連携しつつ、まずは協議会設立に向けての伴走支援を行う。 ②あそんべ食堂実行委員会主催の地域食堂「おびつ あそんべ食堂」は、多世代を対象に「おいしいご飯を食べながら集える場の創出」をコンセプトにしている。公民館として、本事業を支援しつつ、地域内の団体や個人など、バックヤードの運営も含め様々な連携を創出し、地域活性化につなげたい。
対 象	準備会運営委員ほかメンバー、あそんべ食堂実行委員会
回数・延べ参加人数	①地域づくり協議会 キックオフ・設立準備会 6回(3~8月) 延べ137名 ②おびつ あそんべ食堂・5/20(お試し開催)、6/17、7/8、8/19に開催 延べ401名(うちボランティア75名)
周知方法	HP・広報きみつ・公民館だよりへの掲載、地域内団体への説明、自治会回覧(おびつ あそんべ食堂開催のチラシ、「小櫃地区設立準備会だより」)
事業概要	①地域づくり協議会：準備会会議の前に毎回職員打合せ(公民館・市民センター・地域づくり課)と、運営委員を交えての運営会議を行い、課題や情報の共有に努めている。住民自らが地域課題を見極め、対策を考え、自らの手で解決方法を導く組織(準備会)となるよう、側面支援を行っている。 ②おびつ あそんべ食堂：異世代が交流できる場を創出したいという地域住民の声からスタート。食材の提供、調理手伝いや配膳、かき氷のサービスやふるさと祭り実行委員会との連携(盆踊り練習会)など、回を重ねるにつれ様々な団体との関わり方が展開している。地元の中学生もボランティアとして参加している。
成果・課題	成果：これまで公民館を訪れたことのない地域住民が、①あるいは②への参加、という明確な目的のもとに多数来館しており、新たな利用者層の開拓にもつながっている。また、とくに①については、30~50代の参加者が半数を占めており、地域活性化の動きにつながるものと期待できる。②についても、地域の役に立ちたいが自分で行動を起こすにはハードルが高いと感じていた方々(特に女性)にとって、思いを叶える機会を提供することができた。 課題：①について、その工程は、職員と住民とで毎回すり合わせをしながら、少しずつ地域づくりへのベクトルを核心に近づけていくという地道な作業の繰り返しである。今後はビジョンを鮮明にして方向性を定め、目的意識をもって運営できるよう、且つ、過度にならないよう見極めながらの支援が必要である。 ②については、課題の克服や持続可能な運営方法を実行委員会のメンバーとともに模索してゆく。

令和7年度行政及び各機関の特徴的な取組

所属：上総公民館

分 類	課題解決学習推進事業
事業名称	上総子どもふれあい教室
実施日(期間)	第1回：6月28日(土)、第2回：7月31日(木)
目 的 ね ら い	<p>人権に関する正しい知識、実践力等を身につける場とすると共に、子ども同士のふれあい活動を通して、仲間意識や思いやりの心を育てる。</p> <p>今年度テーマ「みんなの気持ちをつなげよう！」</p> <p>子どもたちがいろいろな立場の人との交流を通して、相手への理解、思いやりの心を育む。</p>
対 象	上総小学校在籍の3～6年生 20名程度
回 数 延べ参加人数	2回実施済み(全4回実施予定) 延べ26名参加
周 知 方 法	対象学年の児童に上総小学校を通じてちらしを配付
事業概要	<p>【第1回】開級式&手話であそぼう</p> <p>君津市ろうあ協会の鈴木幸子さんを中心に、ろうあ者の協力者が3～4人の班に1人ずつ入り、手話の指導を行った。児童全員が自分の名前を覚え、発表することができた。</p> <p>ジェスチャーゲームでは、「スポーツ」「仕事」「何をしているところか」などを伝えるため、身振り手振り、演技力などを使って、ろうあ者の方を交え楽しくコミュニケーションをとることができた。</p> <p>【第2回】移動学習 東京都人権プラザ、ガスの科学館</p> <p>生涯学習バスを利用し、東京都人権プラザでは講話の後に車いす体験やブラインドサッカーの体験を通じて人権への理解を深めた。ガスの科学館では、普段使っているガスについて体験や展示を通じて理解を深めた。</p>
成果・課題	<p>成果：主任児童委員や地元自治会、人権関係団体などの協力を得ながら、毎年安定的に実施することができている。子ども達の感想等からも、人権を身近に感じられている様子がうかがえる。</p> <p>課題：毎年参加してくれる児童が多いが、人権というテーマの中で毎年切り口を変えて毎回の内容を組み立てることが難しい面がある。</p>



令和7年度行政及び各機関の特徴的な取組



所属：上総地域交流センター

分 類	市民相互交流促進・生涯学習促進事業
事業名称	花いっぱい運動
実施日(期間)	令和7年5月29日(木) ※第2回を11月頃実施予定
目的・ねらい	平成15年度から実施している。上総地域交流センターの花壇を、君津青葉高等学校を中心に、地域の諸団体と上総地域交流センターが協力して植栽することで、来館者や通行人をもてなす環境を作る。
対 象	参加者：君津青葉高等学校12名(生徒8名、先生4名)、ロータリークラブ2名、まちなみ塾2名(白熊、榎本)
回数・延べ参加人数	2回予定(1回実施済み) 16名参加
周知方法	高校と相談して実施日を決定後、当センターから参加団体に連絡
事業概要	<p>11時 青葉高校の先生と生徒が来館し、穴あけや花苗の配置等の準備を行った。</p> <p>11時30分 開会(進行：今井) あいさつ：館長 作業の説明：青葉高校生徒 植栽作業：全員 (君津青葉高校からペチュニア、ジニア、マリーゴールド、マツバボタン合計約600株を提供していただいた。)</p> <p>12時5分 散水用エバーチューブの設置</p> <p>12時10分 片付け・清掃</p> <p>12時15分 記念撮影</p> <p>12時20分 あいさつ：先生</p> <p>12時25分 解散</p>
成果・課題	<p>成果：君津青葉高校の生徒が授業の一環として主体的に取り組み、植栽方法やレイアウトの検討及び当日の準備や説明にあたったこと、また地域の諸団体の協力により、円滑に作業をすることができた。</p> <p>課題：高齢化等により、地域団体からの参加者が減少している。今後は公民館定期利用サークル等に参加を呼び掛けることも考えられる。</p>



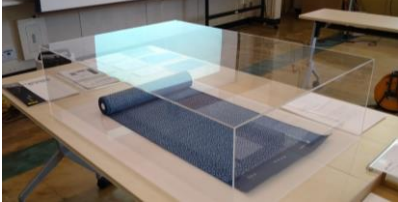

令和7年度行政及び各機関の特徴的な取組

所属：中央図書館

分類	中央図書館読書推進事業	
事業名称	児童文学講座	
実施日(期間)	令和7年5月18日(日)午後1時30分から4時まで	
目的・ねらい	子どもの読書推進活動の一環および図書館への来館のきっかけづくりを目的とし、図書館友の会きみつとの共催で児童文学作家による講演を開催	
対象	幼児から(未就学児参加の場合は保護者同伴)	
回数・延べ参加人数	1回 116名参加	
周知方法	広報きみつ、ホームページ、市SNS、市内小学校児童へのちらし配布、館内掲示・ちらし配布	
事業概要	<p>絵本作家・画家・鳥の巣研究家である鈴木まもる氏を招き、講座を行った。絵本の作り方や専門分野である鳥や鳥の巣に関する話を中心に行い、実物の鳥の巣や巣の中の様子を映像で投影した。</p> <p>令和7年4月から8月まで、中央図書館で講師の関連図書の展示コーナーを設けた。</p>	 
成果・課題	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内を中心に、子どもから大人まで幅広い年齢層の参加者が集まった。 アンケート結果から、回答者のほぼ全員が講座について「とても良かった」「良かった」と回答。満足度が高く、また絵本や児童文学の講座を希望する声が多く見られた。 講座前後には講師著作の貸出が多く見られ、図書館利用や子どもの読書推進に繋がった。 学校から配られたチラシを見て申込をした方も複数見られ、児童向けイベント等の周知に全児童へのチラシ配布は一定の効果が得られた。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座をきっかけに来館した利用者の継続的な図書館利用につながる仕組みづくりが必要。 	

令和7年度行政及び各機関の特徴的な取組

所属:久留里城址資料館

分類	博物館普及事業	
事業名称	出張講座「長板中形」	
実施日(期間)	令和6年5月1日～令和8年3月31日	
目的・ねらい	<p>重要無形文化財・人間国宝となった長板中形と松原伸生氏について、江戸時代から続く伝統の技術と、作品の魅力、美や工夫を紹介する。</p> <p>テーマへの関心が高い時期に合わせ、令和6～7年度の限定講座として学習の要請に答え、あるいはアプローチして学習をより深める。</p> <p>当館への来館機会が少ない市民が、身近な会場で市の歴史・文化の講座を受講できる機会を設ける。</p>	
対象	<p>①君津市内在住・在勤・在学のおおむね 10人以上の団体・グループ ※「まちづくりふれあい講座」として実施 ②市外の公共機関・私設美術館</p>	
回数・延べ参加人数	<p>令和6年度 6回 211人 令和7年度 7回 144人(予定)</p>	
周知方法	君津地方4市公民館へチラシ配布、まちづくりふれあい講座メニュー表	
事業概要	<p>テーマを定め、希望する団体のもとへ職員が出向いて出張講座を行った(当館主催事業としては初の試み)。「まちづくりふれあい講座」に協力を求め、市内の利用は同講座からの受け付けとした。</p> <p>①令和5年度企画展「長板中形」の内容をスライド化して解説。 ②動画「長板中形」で作品制作の流れを上映。 ③令和6年度収蔵の長板中形作品を展示。 ④簡易的な藍染めで型染めのしくみを体験。 (※④は希望団体)。</p>	 
成果・課題	<p>(成果) 出張展示や出張事業を求める声に対応した事業でもあったが、市内外の13個所で開催することができた。市民の工芸への関心が高いとは言えない中で、作品を間近に見て感嘆する声や、体験による理解の深まりの感想が聞かれたことは、一定の成果と考え、今後の文化芸術面への興味の広がりにつなげたい。</p> <p>(課題) 9割以上が公民館の一講座としての実施になり「博物館の講座が身近な場所で開かれた」という形を提供できた訳ではなく、その点では別の利用形態や環境設定の検討も必要であった。また今後の出張事業を考える時、自前の所蔵資料が少なく、資料持出(保全)や写真利用(権利)に制限が多い当館では、題材や会場の吟味が必要で、その状況を利用者と共有することも重要と考えている。</p>	